

第10号
(通号47号)

栄養 いわて

発行元

2024年2月9日

発行所：公益社団法人岩手県栄養士会

責任者：澤口 眞規子

〒020-0033 岩手県盛岡市盛岡駅前北通6-50 井上ビル

TEL：019-625-3706 / FAX：019-625-3707

会長挨拶

共に成長する専門職能団体として

公益社団法人岩手県栄養士会 会長 澤口 眞規子



新しい年を迎えました。

新年早々、震災に見舞われた能登半島の皆様にお見舞い申し上げるとともに、ご家族を失われた皆様にお悔やみを申し上げます。

2024年の干支は「甲辰」(きのえたつ)。「甲」は十干の「物事のはじまり」をいい、「辰」は万物が成長して「大きな成長」を表す。なんと縁起が良い年であったはずなのに、家族団らんを一瞬にして奪った震災に驚異を感じ、一日も早い復興を願うばかりです。

さて、2023年度の総括として当会事業を振り返ると、管理栄養士・栄養士が医療従事者として厚生労働大臣告示を受け、12月の栄養改善学会では岩手県医師会 本間会長様から、医療推進における栄養アセスメントの重要性、管理栄養士・栄養士に対する期待等、心躍るメッセージをいただきました。

児童福祉、学校健康教育では、「こども家庭庁」の発足に準じ、乳幼児から18歳未満のこどもに対する福祉と健康の向上の一元化のため、当会では「こども健康教育研修会」を開催しました。これは、児童福祉、学校健康教育、公衆衛生の職域合同研修会として全国に先駆けた企画でした。

また、岩手県食形態分類標準化推進事業は、ここ数年間で、県内関係施設の殆どが患者・利用者の咀嚼嚥下状態に応じた食事提供が可能になり、「栄養管理情報提供書」や「安全に食べるための栄養・食生活アドバイス」による“食の連携パス”発信は、大きな躍進です。関係各位と会員の皆様のご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

また、今年注目されているのは診療報酬、介護報酬さらには障害福祉サービス等報酬が同時に改定される「トリプル改定」でしょう。報酬を受ける側(患者・要介護者・障がい者等)の増大と提供する側(医療関係者・介護・障がい者支援者等)の減少が益々深刻化する中で、「地域完結型」、「在宅医療」、「医療・介護の連携」、「デジタル化による情報の一元化」がキーワードとして上がっています。渦中に、「訪問栄養食事指導」が散見し、私たちが実践してきたことは間違いなく、益々その重要性が求められています。

本年も会員の皆様の声を反映した研修、学会、事業運営を進め、「甲辰」の年に相応しく、「大きな成長」をする専門職組織団体として活動して参ります。どうぞ多くの会員の皆様のご参加をお願い申し上げます。

「特集」全国へ情報発信「食形態分類標準化推進事業」

全国誌「公衆衛生情報12月号」に澤口会長の寄稿文が掲載になりました。

寄稿

多職種協働による

「食の連携パス」

「保健・医療・介護から在宅

ケアにつながる嚥下調整食」

公益社団法人岩手県栄養士会 会長 澤口 真規子

はじめに

「食べることは、生きることであり、誰もが「最期まで自分の口から食べたい」と願っています。その食べ物が自分の好物で、懐かしく、おいしかったら、どれほど満足できるでしょうか。

今回、寄稿したのは、岩手県において、そのような願いを実現させようと関係組織と多職種が協働した成果の報告です。たった3年間でここまで到達できたことをお伝えします。

「嚥下調整食」を 共通言語に...

「嚥下調整食」をご存じない方もいらっしゃるでしょう。要介護高齢者等の咀嚼嚥下や身体活動低下

えんげ

の程度に応じて、形態やとろみを調整した食事のことです。飲み込みが悪く、むせがひどい方にも、軟らかく、ある程度の粘性を加えることでツルンと喉通りが良くなり、誤嚥を防ぎます。

厚生労働省「人口動態統計2022」の死亡数を死因別に見ると、第5位は肺炎の7万4002人(4.7%)、次いで第6位は誤嚥性肺炎の5万6068人(3.6%)でした。高齢者が誤嚥性の肺炎に罹患するリスクをできるだけ低減することも嚥下調整食の目的です。

今、食べている嚥下調整食を 次につなきたい

全国4県分の広い面積を有する岩手県では20県立病院および6医療センター、県央には医科大学の特定機能病院、その他約70の民間

表1 岩手県内関係施設数 (2023年1月現在)

一般病院	92
有床診療所(食事提供)	16
老人保健施設	65
老人福祉施設	113
地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護	55
特定施設入所者生活介護	32
計	373

医療機関があります。急性期病院内では入院期間の短縮化が進み、回復期・維持期に対応する二次病院や介護施設への早期転院に努めています。岩手県内の関係施設数を表1に示します。

ここで、とある管理栄養士は考えました。急性期病院で患者個々に調整した嚥下食を次院につなぐたい。情報共有することで、食形態の確認時間が省略され、本人に負担が少ない栄養管理が即応できる!

この提案は誰しもが望むことです。が、圏域内の病院、老健、特養ホーム等に声掛けし、連携組織をつくるのは、管理栄養士の努力だけでは難しく、県内各所で一進一退を繰り返していました。

だったら、県内を標準化するしかない!

2019年、栄養士会では、実

表2 岩手県食形態分類標準化推進委員会 (2023年10月現在)

岩手県食形態分類標準化推進委員会	
【結成の目的】	【構成員の詳細】
食生活及び栄養障害の改善、疾病の再発予防のため、岩手県内の医療、福祉及び保健に関する施設及び従事者が食形態の共通認識を進め、要介護高齢者の摂食嚥下機能に対応した栄養管理に取り組むことを目的とする。	◎岩手県医師会代表 (岩手県立中央病院 院長)
さらに、在宅介護を支援する食生活改善ボランティア等と一体となった県民参加型の地域包括ケアシステムの推進に資する。	岩手県歯科医師会代表 (歯科医院 院長)
	回復期・リハビリ病院 代表 (リハビリテーションセンター 院長)
	岩手県介護老人保健施設協会組織代表 (医師)
	岩手県特別養護老人ホーム組織代表 (施設長)
	岩手県看護協会代表 (摂食嚥下障害看護認定看護師)
	岩手県言語聴覚療法士会組織代表
	岩手県保健福祉部長寿社会課 担当課長
	健康国保課 担当管理栄養士
	岩手県医療局、県立病院代表 管理栄養士
	岩手医科大学附属病院 栄養部代表 管理栄養士
	栄養ケア・ステーション代表 管理栄養士
	公益社団法人岩手県栄養士会 組織代表 管理栄養士
	岩手県保健所代表、栄養士会副代表 管理栄養士
	特別養護老人ホーム栄養部、栄養士会副代表 管理栄養士

践力のあるメンバーを招集し、具現化を検討しました。まずは、実情把握と課題整理のためにプロック別の準備会を開催。保健所に共催してもらうことで参加力も高まり、栄養士会未入会者の意見も集めることができました。

「ポイント1」「嚥下調整食」を理解しているのは約半数の施設。対応コードと物性に格差あり。

「ポイント2」管理栄養士の施設間の73.1%は情報共有しているが、情報提供様式がさまざま。

優れた人材と、より良いシステムの提供を目指して

System Aid CO.,LTD

Aid 株式会社 システムエイド

システム開発 ・栄養管理システム (Mects、Cans-Aid) ・電子カルテシステム (MIRAIS/AZ) ・医事会計システム (MAPSIBARS/C) ・介護保険業務支援システム (ほのほNEXT) ・預り金管理システム (DACCS) ・物品管理システム (L-Mac)	アウトソーシング ☆オペレーター派遣 ☆業務委託 ・物品管理業務 ・クラーク業務 ・システム管理 ・中材、減価業務 ・ヘルプデスク
--	---




http://www.system-aid.co.jp
 岩手県盛岡市三ツ割四丁目2番8号
 取019-661-6461 Fax019-661-6463

適温配膳車iクッカー和 (IAQOMI)

- 菌の繁殖を防ぐ 確かな温度管理性能で安心
- エレベーターなどでの操作性が向上 業界最小のコンパクト設計
- 食味の「質」をグレードアップ 漆調フラットトレイ

株式会社 Fujitaka 0120-533771
 本社/〒600-8216 京都市下京区東塩小路町606 三旺京都駅前ビル7階

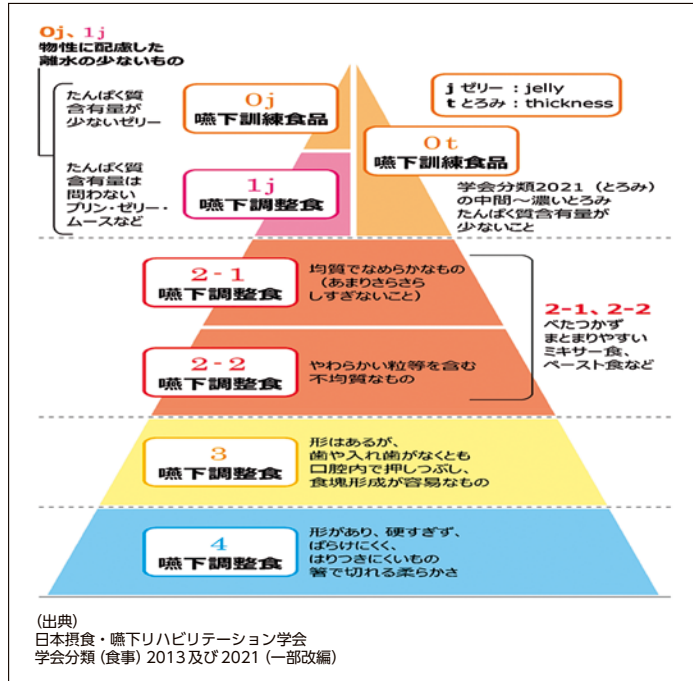
表3 年次別の事業展開

	ポイント	主な事業内容	評価
1年次 2020	<p>病院から施設へ高齢者の嚥下咀嚼の機能に応じた食事情報を発信します♥</p> 	<p>① ★病院と施設の嚥下調整食マネジメント能力向上 [岩手県ガイドライン]作成 ② 食形態分類標準化研修会(試食体験による物性確認) ③ 病院及び高齢者施設給食食形態実態調査(回答94.1%) ④ 委員会2、専門委員会6</p>	<p>① 2,000部作成 ⇒全関係者配布 「栄養管理情報提供書」様式提示 ② 研修会参加 321施設、429人 ③ 嚥下調整食(1~4)対応可能施設 59.7%(2019調べ)</p>
2年次 2021	<p>どこの病院施設でも、嚥下機能に応じた、美味しい食事を提供します♥</p> 	<p>① ★嚥下調整食標準化のための調理力アップ [岩手県ガイドライン]作成 ② 食形態調理力アップ研修会(対コロナのため中止) ⇒HPに調理動画、YT配信 ③ 食形態実態調査II(88.2%) ④ 委員会2、専門委員会6</p>	<p>① 1,500部作成 ⇒全関係者配布 ② HP再生回数多数、自活力up ③ 「栄養管理情報提供書」活用拡大⇒病院69.5%、老健71.7%</p>
3年次 2022	<p>ご本人の栄養と家族の健康を支えます♥</p>  <p>管理栄養士 ヘルスメイト ケアマネ</p>	<p>① ★施設⇒在宅栄養ケア推進 [岩手県ガイドライン]作成 ② 在宅栄養ステップアップ研修会 県内33市町村で開催 ③ 食形態実態調査III(84.2%) ④ HPレシピ動画SNS活用 ⑤ 委員会2、専門委員会8</p>	<p>① 4,000部作成 ⇒全関係者、市町村、地域に配布 ② 在宅栄養ケア支援に対応したい施設87.8% ③ 嚥下調整食対応施設71.1% 特養が1.5倍増</p>

【ポイント3】栄養管理部門と他専門職の連携が取れているのは26.9%の施設。
この結果を踏まえ、同年11月に、医師、看護師、言語聴覚士、関係施設長の多職種による「岩手県食形態分類標準化推進委員会」(表2)を結成しました。とても企画力の高い委員会です。事業費は県長寿社会課を通じて公益財団法人いきいき岩手支援財団が実施してい

る「いわて保健福祉基金助成事業」から助成を受けて運営しています。また、年次別の事業展開を表3に示します。PDCAサイクルにより推進し、常に形あるものを残すことと、進捗評価を実施しています。
前記に示した対応施設割合は、施設区分別、食形態コード(図1)別の実施率の平均値であり、総括すると、全施設がいずれかの嚥下

図1 嚥下食ピラミッド



一般財団法人 日本公衆衛生協会発行
「公衆衛生情報」2023年12月号から転載

食を提供しており、特別養護老人ホームでの対応が拡大しました。「食の連携パス」として、栄養管理情報提供書を活用し、圏域内の管理栄養士の顔の見える関係に発展しています。

最終目的として、在宅栄養ケアは地域包括推進・自立支援のパス

ボートとして、病院と施設が発信する「安全に食べるための栄養・食生活アドバイザー」が今後、定着するよう活動を進めています。また、今年度は各施設の嚥下調整食の対応力向上を目的に、経験力に富む「指導マスター」を派遣し標準化に努めているところです。まだまだ課題はありますが、多職種の協力を得たことに、この3年間の成果があると思っています。

おわりに

地産地消・食の安全、安心・地域貢献

TFS 東北フードサービス 株式会社

代表取締役社長 室田 義男

■ 介護施設向け食品・試食会(予約)開催中!

本社 盛岡市上田字岩脇1番地14
TEL: 019-656-1221 FAX: 019-656-1228
https://www.tfs-i.com

外食産業のパートナー・パワ― 業務用食材の総合商社

株式会社 中村商会

本社 〒024-0004 岩手県北上市村崎野1-3-25-1-1
TEL(0197)68-2300(代) FAX(0197)68-2325
盛岡支店 〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南三丁目4-1-3
TEL(019)639-7100(代) FAX(019)639-7700
一関支店 〒021-0901 岩手県一関市真柴字川戸2-3-2
TEL(0191)32-5600(代) FAX(0191)32-5625
秋田支店 〒010-1612 秋田県秋田市新屋豊町3-2-1
TEL(018)827-5123(代) FAX(018)838-7855
横手支店 〒013-0041 秋田県横手市大沢字前田1-2-5
TEL(0182)32-5538(代) FAX(0182)33-6666

令和5年度 厚生労働大臣表彰・岩手県知事表彰 おめでとうございます



栄養改善事業功労者 鈴木 典子

この度は厚生労働大臣表彰に際しましてご推薦下さいました岩手県栄養士会会長様をはじめ事務局、会員の皆様に深く感謝申し上げます。地域活動職域会に所属し、地域活動栄養士として微力ながら活動を続けてまいりました。

今も思い出されるのは2011年の東日本大震災の時の経験です。主に大槌・釜石地区の避難所や仮設住宅、集

会所等を行政の方々や地域活動職域会の仲間、全国から応援の方々や歩いた時の事です。記録誌「そのとき被災地は～栄養士が支えた命の食～」(2013年、岩手県栄養士会編集・発行)は私にとって今も大切な一冊です。

これからも初心を忘れず、謙虚な気持ちで栄養士として社会と繋がっていきたくて思っております。どうぞ引き続きご指導を宜しくお願い致します。



栄養指導業務功労者 工藤 綾子

この度、栄養指導業務功労者として、厚生労働大臣表彰を受賞いたしました。推薦にご尽力下さいました岩手県栄養士会会長様をはじめ、多くの方々へ深く感謝申し上げます。

令和5年9月27日に東京都千代田区 都市センターホテルで開催された「全国栄養改善大会」において表彰式が行われ出席して参りました。

昭和55年に開院した松園病院に入職してからあっという間の43年でした。(平成21年遠山病院、平成30年荻野病院 現在勤務) 上司に栄養士会に入会するよう勧められて入会しました。当時の栄養士の研修会、盛岡地区病院栄養研究会では他施設との交流が盛んでした。地元の大学出身ではない私にとっては、先輩栄養士の方々との研修会後の情報交換は大変勉強になりました。これまで、私の周りでご一緒させていただいた全ての方々、そして家族に感謝いたします。今後も職場に、社会に貢献して参ります。



栄養指導業務功労者 小野寺 牧子

この度、栄養指導業務功労者として、厚生労働大臣表彰を受賞いたしました。

昭和48年6月、市の栄養士として、高齢者施設を皮切りに児童施設や行政で36年10ヶ月勤務いたしました。私は、今回岩手県栄養士会様から推薦のお話しをいただいた際、平成22年3月に自己都合で早期退職しておりますことから、ご辞退の申し入れも考えましたが、これは長年私を支えてくださった県栄養士会長様を

はじめ会員の皆様、勤務した職場の仲間、地域の皆様のご支援の賜物と思い、お受けさせていただくことにいたしました。

退職後は、地域活動職域会に所属し、地区会員と「栄養の日」事業の開催や、「こども食堂」等のボランティア活動に参加させていただいていることが、多くの人との出会いの場となり、私の宝物となっております。

今後も、地域の栄養士として微力ではございますが、可能な限り社会活動に参加して参りたいと思っております。



岩手県保健医療功労者 村里 智子

この度、岩手県栄養士会からご推薦を頂き、岩手県保健医療功労者知事表彰を受賞致しました。身に余る光栄で、心より感謝申し上げます。

現在は盛岡医療センターでPAE(小児アレルギーエデュケーター)として食物アレルギーのチーム医療に参画、また年数回の均てん化にむけた講演活動を行っております。岩手県栄養士会においては、医療職域の理事として微力ながら会の運営や活動に関わらせていた

だいております。

前任地であるもりおかこども病院で、食物アレルギーのお子さんをお持ちのお母さん方が対応の難しさに困り果て、自分を責めたり涙を流す姿を何度も目にしたことから、平成26年6月にPAEの認定資格を取得し、現在に至っています。

食物アレルギーの治療は栄養食事指導無しで進めることは不可能であり、管理栄養士がチーム医療の中核をなしているといっても過言ではありません。今後、食物アレルギーの専門性をもった管理栄養士・栄養士が増えてくることを期待しています。

日本栄養士会顕彰 栄養橋寿会員・25年業務功労者 おめでとうございます (敬称略)

- 栄養橋寿会員 池田 セツ 下田 田美子 高田 タキ
高田タキ様におかれましては、令和5年12月にお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。
- 25年業務功労者 江刺家 誠 大志田 悦子 佐藤 恵子 佐藤 亮子 澤口 真奈美 下久根 美樹子
鈴木 五月 千葉 忍 根子 眞弓 藤澤 尚子 藤原 美雪 吉田 真理

おいしく 鉄・カルシウム!
おくちに笑顔
元気をカラダに



ソフト元気
ヨーグルト (70g)

Yakult

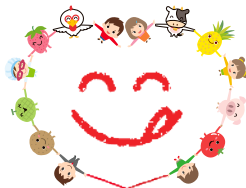
岩手ヤクルト販売(株)

〒020-0125 盛岡市上堂4-3-4 TEL.019-641-8960

NAKANISHI

ナカニシは学校給食、病院給食、企業や大学の食堂、
外食など業態ごとのキッチンシステムをトータルにご提案します。

人と人を笑顔でつなぐ



株式会社
中西製佐所

中西製佐所

盛岡営業所
〒020-0839 盛岡市津志田南二丁目2番38号
TEL: 019-639-1671 FAX: 019-639-1677

第38回岩手県栄養改善学会

副会長 高橋 希美

12月9日、アイーナにおいて、第38回岩手県栄養改善学会を開催しました。会場66名、Zoom22名の参加でした。

今年度から、一般口演を意義あるものにするために査読と評価を加え、野口孝則先生(上越教育大学大学院 学校教育研究科教授)からご指導をいただきました。6名の発表者には助言後に修正を頂く等のご苦労はかけましたが、野口先生から、学会発表の意義や期待、課題発見の視点等を助言いただき、とても実りの多いセッションになりました。

また、昨春の厚労大臣告示により管理栄養士・栄養士が医療従事者に認められたことから、今回は特別講演に岩手県医師会の本間博会長様にご登壇いただき「岩手県の医療の現状と課題」をテーマに講演をいただきました。

その後に、澤口会長を座長に、栄養管理の最前線として、①「急性期医療」伊藤美穂子さん(県医療局兼県立中央病院)、②「回復・維持期」古川順勝さん(東八幡平病院)、③「在宅栄養ケア」千葉忍さん(合同会社ZEN PROJECT)に発表いただきました。

本間会長様から、栄養管理は予防、治療、ケア、緩和の全てにおいて非常に重要であり、医師会としても連携を深めたいと発言をいただき、会員一同ボトムアップを誓ったところでした。本間会長様、ありがとうございました。

さらに、4年ぶりの協賛各社の展示は、新しい情報入手ができ、とても刺激になりました。参画いただいた協賛各社の皆様に御礼を申し上げます。



野口先生の助言の一つひとつが参考になりました。



本間会長様「栄養士は医師の不可欠のパートナー」です！

生涯教育研修会

研修部長 森 真貴子

令和5年度生涯教育研修会は昨年度に続き、会場集集とZoomにより開催し、全5回、延べ1,219名にご参加いただき、盛況のうちに終わることができました。

実施した一部を報告します。第5回は、「日本の明日を担う子どもたちの健康と管理栄養士・栄養士の課題」をテーマに、神奈川県立保健福祉大学大学院保健福祉学研究科研究科長で教授の鈴木志保子先生にご講演いただきました。子どもたちの正しい栄養摂取に向けて、これまでの栄養サポートの事例や科学的エビデンスを交えお話いただき、未来を担う子どもたちへの健康教育の重要性を改めて認識いたしました。

また、「チーム医療を推進し輝け栄養管理室」をテーマに、町立西和賀さわうち病院総括院長の北村道彦先生にご講演いただきました。NSTにおける多職種との連携で

は、北村先生のこれまでの取組例から医科と歯科の協働の重要性やその他の医療従事者との関わりについてお話され、特に今後の管理栄養士・栄養士の役割と期待について協調されました。お二人の講師から、管理栄養士・栄養士に対する熱意溢れるパワーに多くの受講者が感銘をうけました。

今年度の実務経験3年未満(受講料無料)の参加は延べ31名でした。また、管理栄養士・栄養士養成校の学生の参加も促し延べ10名の参加がありました。

令和6年度もハイブリッド形式で、今後も皆さまのスキルアップのための有意義な研修会を実施していきたいと思っております。最後に今年度もZoom配信にご協力を戴きました有志の皆さま、本当にありがとうございました。




鈴木志保子先生「栄養指導もAIの時代が来るかも!」



北村道彦先生「栄養管理に関わる栄養士の使命は大きいです」

 ~快適な環境を提案します~

 シーバイエス(株)代理店

エーワメック株式会社

本社 〒020-0034 盛岡市盛岡駅前通15番20号
TEL 019-651-0576(代) FAX 019-654-2512

登録衛生検査機関

(株)日本微生物研究所

代表取締役社長 齋藤哲郎

仙台市宮城野区扇町二丁目3-36
TEL022-783-8471/FAX022-783-8433

令和5年度 警察共済組合食生活改善セミナー

医療職域会担当理事 古川 順勝

警察共済組合からの委託を受け、県警本部及び県内 16 警察署において食生活の改善、脂質異常症を中心とした生活習慣病予防のためのセミナーを医療職域会が担当しました。担当保健師と事前打ち合わせにより、指導内容のポイントを絞り統一スライドを作成し、指導の一本化を図りました。講師は、署管内から指導経験豊富な管理栄養士 14 名にお願いしました。参加者からは、「検査数値や具体的な説明が分かりやすく、実践しやすい」、「不規則な職業だからこそ、食生活を改善しようと思った」など、行動変容に期待が持てる良いセミナーになりました。



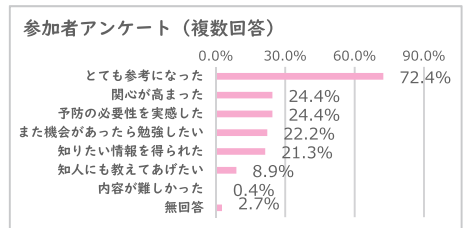
期 日	場 所	講師名(敬称略)	期 日	場 所	講師名(敬称略)	期 日	場 所	講師名(敬称略)
6月22日(木)	釜石	千葉 忍	9月20日(水)	千厩	山崎 久美子	10月11日(水)	紫波	齊藤 純子
6月23日(金)	遠野	千葉 忍	9月20日(水)	二戸	星野 香代子	10月11日(水)	北上	田端 広菜
7月12日(水)	盛岡西	吉田 真由美	9月27日(木)	岩手	中軽米 聡子	10月20日(金)	大船渡	千葉 忍
7月12日(水)	奥州	千田 梅春	10月4日(水)	盛岡東	藤田 紫乃	10月27日(金)	県警本部	俵 万里子
7月12日(水)	久慈	菊池 ゆかり	10月4日(水)	花巻	市岡 静恵	11月10日(金)	岩泉	古川 順勝
7月19日(水)	一関	小山 尚子	10月6日(金)	宮古	山崎 久美子	17ヶ所 参加者291名		

2023 健康づくり提唱のつどいin盛岡 元気で長生き!慢性腎臓病予防セミナー

広報部理事 森川 利佳

県民の健康づくりをめざし、8月5日、エスポワールいわてを会場として、103名の県民の皆様に参加いただきました。

今回は、近年注目されている慢性腎疾患 (CKD) 予防をテーマに開催しました。①本セミナーに協賛いただいた株式会社ヤクルトの小笠原伸浩様より腸内細菌と健康について、②岩手医科大学の旭浩一先生よりCKDの予防と栄養について、③岩手県立中央病院の伊藤美穂子先生より食事療法のポイントについての講演の他、岩手県腎臓病の会の齋藤江理子様より当事者が抱える困難や病気との向き合い方などのお話をいただきました。旭先生から「CKDの食事療法は治すことではない、弱った臓器の負担を減らすこと」という言葉に納得し生活に活かせるノウハウを知る学びの多いセミナーとなりました。



こども健康教育研修会 (児童福祉・学校健康教育・公衆衛生職域会研修会)

福祉 (児童) 職域会担当理事 藤原 美雪

9月19日、アイーナで本研修会を開催しました。「こども基本法」が施行され、支援等を一体的に講ずることが求められている中、今回の研修では、「小児学童期の肥満予防」に焦点を当て、各ライフステージでの取り組みの現状と予防対策の方向性について共有し、目指す方向性を検討しました。

3つの職域会が一つのテーマで研修会を行うという初の試みということもあり、会場参加者 60 名、Zoom 参加者 114 名とたくさんの方に参加していただきました。事例発表として、①奥州保健所の金谷上席栄養士より「本県の幼児期の肥満の実態について」、②県教育委員会の菅原指導主事より「本県の小中学生の肥満の実態について」、③仙北小学校の宮城栄養教諭より「学童生徒肥満の改善に向けた取り組み実践例」をお話いただき、私からは「幼児期の肥満予防の取り組み実践事例」を発表させていただきました。

基調講演では、仙台市森川小児科アレルギー科クリニックの武田管理栄養士様から「小児期における肥満対策のすすめ～個々の食事情を踏まえた栄養アセスメント～」と題して、肥満児の症例事例からアセスメント方法や保護者へのアプローチを学びました。本研修で、各期の小児肥満の対策と現状を知り、途切れることなくつなげていく必要性を感じました。



取組事例を発表頂いた皆様



武田管理栄養士様

「親御さんの頑張りを理解し、まずは寄り添うことから始めましょう」

栄養の日活動 各地区会活動報告

盛岡地区会

担当理事 江刺家 誠

「栄養の日」として盛岡地区会では例年、市町村等が実施するイベントに参加し地域住民の方々に食事や栄養の情報を普及する活動を行っていました。近年は新型コロナウイルス感染症の為活動がほとんど実施できない状況でしたが、今年は規制も解除され、久しぶりに実施することができました。栄養士は食事と栄養の専門家として身近な存在でなければなりません。今後もこのようなイベント等を通じて、多くの方とふれあい、食生活から健康を支えていければと思います。

イベント名	内容	期日	場所	参加者
雫石産業まつり	食育クイズ パネル展示他	10月21日(土) ~22日(日)	雫石町営体育館	食育クイズ・パネル展示他 合計 190人
盛岡市農業まつり	減塩クイズ	10月29日(日)	もりおか歴史文化館前 ステージ	減塩クイズ 20人(限定) 観覧者多数



盛岡市農業まつり



県南地区会

担当理事 高橋 京子

ここ数年間、コロナ禍で活動を縮小しておりましたが、今年度は各地のイベントに併合し、多数の会員のご協力により活発に活動を行うことが出来ました。「今より減塩、野菜料理をもう一皿多く食べよう」をテーマに4地区で活動を行い、どの会場においても多数の来場者があり好評でした。

また、当会で取組んでいる「嚥下調整食在宅栄養ケア」について、行政と連携した研修会、講演会により参加者に情報提供の大切さ、地域との連携の大切さを再認識していただきました。

イベント名	内容	期日	場所	参加者
奥州市「いわて減塩・適塩の日」キャンペーン	健康適塩弁当PR 減塩クイズ・栄養相談	9月28日(木)	ジョイス 龍ヶ馬場店	減塩クイズ 100人 栄養相談 100人
平泉町「いわて減塩・適塩の日」キャンペーン	健康適塩弁当PR 野菜350g計量体験 減塩クイズ・栄養相談	9月28日(木)	ジョイス平泉店	野菜計量体験 100人 栄養相談 100人
医療・介護・家庭における連携バス事業	澤口会長による講演 嚥下調整食試食・情報交換	10月18日(水)	平泉町エビカ	行政・病院・介護施設 31人
花巻市健康まつり (薬剤師会主催)	塩分チェック・栄養相談 野菜350g普及啓発	10月22日(日)	イトーヨーカドー 花巻店 2階	塩分チェック 120人 栄養相談 120人
一関市産業まつり 農業祭	塩分クイズ・栄養相談 血管年齢測定 野菜350g普及啓発	10月28日(土)	一関コールドーム	血管年齢測定 100人 栄養相談 100人
花巻市在宅医療・介護連携推進講演会	ブース展示：嚥下調整食在宅栄養ケア岩手県ガイドライン	12月3日(日)	なはんプラザ	70人



花巻市健康まつり



一関市産業まつり



宮古市「栄養の日」

沿岸地区会

担当理事 千葉 忍

新型コロナウイルスが第5類に移行し多くの事業が再開した今年度、どの会場でも参集型のイベントを喜ぶ声が多く聞かれました。高齢独居の親の食事や幼児の野菜嫌い、健康診断の結果を持参して生活習慣病の悪化防止に具体的なアドバイスを求められる方など多様な相談が寄せられる中、リーフレットを用いてわかりやすく相談に応じていただいた会員の皆様に感謝いたします。終始和やかな雰囲気地域住民とふれあう貴重な時間となりました。

イベント名	内容	期日	場所	参加者
大船渡市「栄養の日」	体組成測定・個別栄養相談	9月20日(水)	大船渡市 サンリア	体組成測定 25人 栄養相談 40人
釜石市「いわて減塩・適塩の日」キャンペーン	ベジメーターによる野菜摂取量測定・健康適塩弁当PR・栄養相談	10月28日(土)	ジョイス釜石店	野菜摂取量測定 75人 栄養相談 45人
宮古市「栄養の日」活動	減塩・低栄養予防体験学習・栄養相談	11月18日(土)	宮古市山口公民館	体験学習 120人 栄養相談 25人
釜石市健康づくりのつどい	「バランスよく食べよう」ゲーム・栄養相談	11月23日(木・祝)	釜石市民ホール TETTO	ゲーム参加 30人 栄養相談 40人



釜石市健康づくりのつどい



減塩もあまちゃん♪
減塩フェスタin久慈



二戸市健康フェスティバル

県北地区会

担当理事 村里 ユミ子

今年度は「減塩・適塩」「野菜をもっと食べよう」をテーマに高血圧予防啓発を行いました。初参加、数年ぶりの参加を含め、5回の栄養の日事業を開催することができました。地域住民の皆様との会話を通し、減塩対策が浸透している地域、継続が必要な地域があると感じました。また、栄養相談が多岐にわたり、次年度は活動をさらに充実させ継続していきたいです。

イベント名	内容	期日	場所	参加者
減塩フェスタin久慈	ブース展示・栄養相談	8月20日(日)	久慈市 文化会館	50人 栄養相談24人
食フェスタin軽米	減塩適塩・栄養相談	10月15日(日)	軽米町役場・防災センター	50人 栄養相談25人
二戸健康フェスティバル	ベジメーター測定・栄養相談	10月29日(日)	なにやーと	150人 栄養相談98人
九戸村健康福祉大会	減塩適塩・栄養相談	11月19日(日)	九戸村 公民館	30人 栄養相談26人
減塩キャンペーン	健康適塩弁当PR・栄養相談	11月28日(火)	ジョイス 二戸店	30人 栄養相談25人

活躍する管理栄養士・栄養士



宮古市立学校重茂給食センター 沢里 舞帆

私が勤務する重茂給食センターは、重茂小学校・中学校の2校、120食を提供しています。受配校がセンターから近いので、温かい給食の提供、毎日給食時間の様子を見に行くことができます。子どもたちが給食を楽しみに献立表をチェックしている様子や、おいしい!と反応しながら食べる様子を見られることが、私の喜びであり、仕事のやりがいとなっています。給食時間は、ほぼ毎日、子どもたちの様子を見て回り、準備の仕方や配食量、おかわりの様子、残食量など、自分が考えた献立が、実際にどのような状態で食べられているか、自分の目で確かめることを大切にしています。また、地場産物を活用した献立作りと食育にも力を入れて取り組んでいます。重茂の海では、わかめや昆布、うに、あわびなど、おいしい海産物がとれます。児童生徒の半数以上の家庭

が、漁師または漁業に関わる仕事をしており、海とともに暮らす町です。小学校では、わかめの芯抜き体験、定置網見学、鮭稚魚飼育、新巻鮭づくり、中学校では、大槌沿岸センターと共同して地域や海について学ぶ総合学習など、9年間を通して、海に関わる学習がカリキュラムされています。給食にも、積極的に地元の海産物を活用し、給食が生きた教材として活用されるよう、給食時間の放送資料やおたよりの作成などを工夫しています。

今後も、子どもたちが自分たちの住む町を誇りに思い、ふるさとを大切にすることを育んでいけるよう、給食づくりと食育に励んでいきたいです。



軽米町健康福祉課 古里 京子

私は軽米町の管理栄養士として令和元年度に採用となり、今年で5年目となります。4年目までは主に保育園の栄養管理や子どもの食育など、乳幼児に関わる業務を担当していました。行政栄養士の業務の対象は全ての地域住民であり、幅広い年齢層に関わるうちに、将来的な生活習慣病予防のためには小さい頃からの食育が重要と考え、給食の適正な栄養管理に加え、令和2年度に保育園の園児を対象とした食育事業を立ち上げました。他職種との連携は難しいと感じることもありましたが、密にコミュニケーションをとり、同じ目的に向かって取り組むことを大切にしてきました。事業開始当初に食育を受けた園児は現在小学3年生です。学校給食共同調理場の栄養教諭より、「保育園での食育を受けてこなかった学年に比べ、食育を受ける姿勢と理解力が違う。また、

低学年ほど給食の残食が少ない。」と報告を受け、成果が現れていることを嬉しく思うと同時に、小さい頃からの基礎作りの重要性を改めて感じました。

現在は子どもの食育だけでなく、成人・高齢者を対象とした生活習慣病予防事業を担当しております。コロナの影響や栄養士の体制が毎年のように変化する中で、自分にできることを模索しながら事業を展開してきました。行政栄養士には企画力と実行力が必要不可欠だと日々感じているところです。

最後に、新しいことに挑戦させていただける今の環境に感謝しています。今後もさらに成長し、栄養の力で地域住民を健康に幸せにできるよう精進していきます。



編集後記

今年度は4月28日管理栄養士・栄養士が「厚生労働省大臣の定める医療従事者」として告示され、この吉報をお知らせしたく7月に栄養いわてを臨時特別号として発刊。さらに事業が活発に開催され、ホームページの各職域、各地区会で活動報告を実施!! リアルタイムに情報発信が出来たと実感しております。今後も広報や、ホームページ、SNS等を活用し、会員の皆様をはじめ、県民の皆様にも情報発信をし、会発展の一助となるよう、広報部一同「情報発信」し続けてまいります😊

(広報部：古川順勝、飛塚美智子、森川利佳、村里ユミ子)

Food for better Quality of Life



■本社(本店)■
岩手県紫波郡矢巾町広宮沢11地割506番地2
TEL 019-638-9814 FAX 019-637-0369

■モリレイ営業所■ 宮古 一関 八戸 弘前
■グループ会社■ 株式会社アキレイ・秋田営業所

<http://www.morirei.co.jp>



「新シ
価カ = ア デ
値チ = ナ × ジ
」 ヲ ロ グ タ
ル

テーマは「情報発信の価値創造」

杜陵高速印刷株式会社

〒020-0811 盛岡市川目町23番2号
TEL(019)651-2110 FAX(019)654-1084
<https://www.toriyokohoku.com>

